

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102823
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グルーホーム 武岡五丁目
所在地	鹿児島県鹿児島市武岡五丁目16番23号 (電話) 099-282-6081
自己評価作成日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武岡団地の中心に位置し、近隣の病院、学校、郵便局、金融機関やスーパーマーケットなどの商店街が立ち並ぶ、人通りの多い幹線沿いに立地しています。周りには閑静な住宅街も広がり生活の場として地域住民との交流もあります。現在はコロナ禍のため買い物に出かけたり、地域の行事に参加したりができませんが、その中でも入居者の皆様が、楽しく生活できるように、脳活性のパズルや塗り絵・下肢筋力低下予防の体操などを取り入れています。

また、月に1回は仕出しのお弁当や、季節の野菜や果物を提供してお彼岸にはぼた餅を、土用の丑の日はウナギをと季節感のあるもの誕生日にはケーキを作りみんなでお祝いしています。

個別性を重視しながら、自立支援にむけてゆっくりとした時間の中で安全に笑顔で楽しく過ごしていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・数多くの協力医療機関と連携が出来ており訪問診療、訪問看護による24時間対応のほか、個々人の希望するかかりつけ医の訪問診療があり複数医療機関の受診ができ。利用者や家族に信頼と安心を与えている。
- ・コロナ禍により地域行事の自粛。面会制限などがあるが利用者の身体的活動、精神的やすらぎや癒しが希薄にならないようホール内での体操やゲームに総力を注いで支援している。
- ・食事は栄養士の助言を受けて、旬の食材を使い、色彩や地産地消に心掛け行事食も取り入れ、利用者参加で楽しくなるような食事作りを支援している。
- ・管理者や職員は理念のもと豊富な研修、資格取得に励み日々のケアの向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に3か所掲示し各自確認・共有し実践につなげている。スタッフ会議などで理念に基づいた支援ができるよう取り組んでいる。	理念はホール・玄関・食堂に掲示し、日々の振り返りや毎月のスタッフ会議・研修等で確認し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域の行事の中止が相次ぎ、また、面会制限や人の多い所への外出ができない状況であった。散歩などを行い、行きかう方とのあいさつは行った。	町内会に加入し、回覧板を届けたり、相談を受けている。コロナ禍が収束したら相談窓口を強化し地域と継続的な交流を計画している。日々の散歩や挨拶は継続して行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	街の中心部に位置する立地環境に利点もあり、地域の方の見学や、相談にできる限りの対応した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス予防対策として運営推進会議は1回しか行えなかった。委員の方には活動状況や利用者の状況の報告は2か月に1回行っていた。	会議は活動状況や利用者の状態・サービス内容を報告し相談している。コロナ禍での状況を考慮し持参や郵送による報告を行い、電話で提案や質問に答えたりしている。意見や情報をサービスに活かすようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村の窓口担当者や、地域包括支援センター職員とも情報交換を行いながら助言をいただいている	担当窓口を訪ねたり、電話で困難事例報告、相談や利用者の暮らしぶりやケアの様子を伝えている。コロナに関する予防や情報を数多く担当者より受けて、協力関係が築けるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議の中で年4回の身体拘束・虐待防止などの研修を行い、スタッフの理解を深めている。玄関の施錠については交通量が多い場所のため安全面を考慮しやむを得ず施錠するときもある。	身体拘束廃止委員会を中心に、内部研修会や日々の暮らしの中で言葉遣いも含め、拘束をしないケアの実践について全職員が取り組んでいる。玄関の鍵は昼間はしていない。職員体制や必要時に鍵を数分かけている。外出希望者は職員が声かけして一緒に散歩をして、利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修に積極的に参加し、具体例などの検討会を行い、支援の振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内研修に取り入れ、学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用案内説明書や重要事項説明書により家族への説明を行い、同意を得ている。また、不安や疑問については十分な説明を行い納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員の受け入れや、満足度調査を行っており、利用者や家族から意見や要望を伺う機会を設け、いただいた意見を運営に反映させている。	現時点ではガラス越しの面会を行い、アンケート調査を年2回、満足度調査も実施し、気軽に意見や要望を出してもらえるよう心がけている。面会希望が多く、利用者や家族の精神的な望みを満足できるように模索中である。介護相談員を受け入れている。年2回の家族会は自粛している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやスタッフ会議、個別で意見や要望を聞き、改善策などを考え運営会議などで反映できるようにしている。	スタッフ会議や勉強会等で職員の意見や提案を取り入れ実践している。管理者は日頃からコミュニケーションを図り意見や要望が言いやすい環境作りを心掛けている。夜間の状況変化に気づいた時点のケアの改善点、注意点等、職員で話し合いを行い、支援を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の状況に努め、早出遅出等配慮し働きやすい職場環境に考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ渦のため、集まったの研修はできないが、eラーニングなどを活用し、毎月自主研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム熊毛支部連携協議会のzoomの研修や、同法人内グループホームとの交流を図り質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、生活状況の把握や、心身の状態本人の思いに向き合い、不安なく過ごせるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ渦の中で、対応できるところは行い、難しい部分は理解が得られるように説明しながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを見極め、他のサービス利用の検討も随時行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は接遇を意識しながら、人生の先輩である方の尊厳を大事にし、ともに支えあいながら生活する関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の中、家族参加の行事はないが、毎月近況報告や、変化があれば電話で連絡するなどし、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会制限や外出の自粛があるが、ガラス越しや、電話で関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍のためガラス越しの面会や電話での交信を継続中。馴染みの美容院、自宅への外出・外泊、墓参りなど家族の協力を得ながら近日中に実施の予定。ホーム訪問者には再度の訪問をしやすいようにホームでの生活を詳しく伝え再来訪の環境づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考慮し、利用者同士がコミュニケーションがとりやすいように、また苦手な人は職員を会して交わるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、連絡を取り合いながら、必要ならば相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中からも希望や、意向の把握に努め変化にも速やかに対応ができるようにしている。	日常生活の中で信頼関係を深め、思いを聞きケアに結び付けている。夜間・入浴時の会話や何気ない日常の仕草、つぶやきなどから気付きや意向・思いを把握している。家族の面会時には思いや意向を積極的に聞き早期の対応ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員や、主治医、家族や知人などや本人との会話の中で情報を得て本人全体の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解し、情報を共有するように努めている。できる力の継続にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、訪問看護など一同には会せないが取りまとめを行い、現状に合った介護計画を作成している。	本人や家族に思いや要望を聞き、利用者主体の介護計画を作成している。定期的な見直しのほか状態変化や受診結果により医師、訪問看護師、利用者や家族と相談しながら介護計画を変更し、現状にあった計画を作り共有してケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、バイタルサインや食事摂取量・日々の暮らしの様子や本人の言葉など記録し、全職員が確認できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>体調不良時の病院受診、緊急対応など柔軟に対応し、必要に応じてサービスの提案なども行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らせるように、警察・消防等協力支援体制をとっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人が希望するかかりつけ医となっている。病状によって変更することもあるが、納得してもらっている。</p>	<p>契約時にかかりつけ医について話し合い希望に沿って支援している。月2回協力医の訪問診療をコロナ禍により月1回、訪問看護による24時間対応の他、皮膚科・歯科も訪問診療があり複数医療機関の受診ができ、支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に訪問看護ステーションがあり、毎週健康チェックに訪問がある。急ぐ場合は電話で相談や、訪問してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供を行い、入院目的を短期間に達成し、スムーズに退院ができるように退院計画を病院関係者と、本人家族と話しあい必要な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、早い段階から家族の意向確認を行い、事業所としてできることを説明している。また、ホームでの看取りについても説明を行い、主治医・家族・職員が話し合い方針を決めている。	入所時に重度化に伴う看取りの方針を説明し同意を得ている。重度化や終末期には状態の変化がある毎に本人・家族の意向を踏まえ説明を行い、医師、看護師と連携し、安心して最後を迎えられるようチームで取り組んでいる。緩和治療での終末期の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で勉強会を行い、急変時に慌てないようにマニュアルをはってある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災・火災訓練を行っている。うち1回は消防署の参加を得ているが、地域の参加協力はコロナ渦のため、できなかった。</p>	<p>災害訓練は年2回行っている。そのうち1回は消防署の指導のもと通報及び避難訓練・消火器の取り扱い等を実施している。防火管理責任者を中心に避難場所への安全な移動等を行っている。今後、地域住民参加を依頼して協力体制を築けるよう努めている。設備業者に毎回参加して貰っている。備蓄は3日分、水・レトルト食品・缶詰等を備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを対応も気を付けている	個人の尊重やプライバシーの保護について勉強会や会議を実施している。接遇マナー研修を行い、言葉かけやトイレ誘導・入浴介助など、誇りやプライバシーに配慮してさりげない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表れやすいような日々のケアに努めている。意思表示が難しい方は自己決定ができるような声掛け働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、その日の状態や希望をできるだけ取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用してそれぞれの好みに合ったヘアスタイルにしている。衣類もなるべく選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、材料や調理方法を考え、好みに合うような味付けにしたりしている。できることは手伝ってもらっている。	栄養士の助言を受けながら栄養バランスを考慮し毎日のメニューを利用者に解りやすいところに掲示している。家族にも写真で毎月の便りで知らせている。旬の食材や好みの食事などを取り入れている。行事食も手作りを心がけ、食事が楽しいものになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事摂取量を記録している。水分量が確保できるよ宇声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて一人ずつその人に合わせた介助をしながら口腔ケアを行い、義歯も每晚洗浄剤に浸けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗はあるが、トイレで排泄できることに重きをおき、排泄のパターンや、声掛けでトイレで自立して排泄が出来る用に支援を行っている。	動作や表情など、小さな情報も職員全員で共有し、日中はトイレでの排泄の自立支援を行っている。夜間はパット・リハビリパンツ・おむつを使用している。おむつからポータブルトイレへ移行した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳の提供をし、みそ汁の具などに野菜をたくさん入れるなど工夫している。必要な方は主治医と相談しながら、内服薬の調整を行うこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日・時間はある程度決まっているが、体調や要望・希望に添えるようにしている。浴槽の温度も個々の好みに合わせて行っている。	入浴は週3回、午前となっているが、曜日・時間・湯温など、利用者の希望を確認し、気持ち良い入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声掛けを工夫してタイミングや職員・時間を変えたりして無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにはソファがおいてあり、ゆっくり誰でも休息できるようにしてある。居室では室温・季節に合った寝具、シーツ交換も定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はケース記録にファイルしており、誰でも確認ができる。内服薬の変更時は引継ぎノートにて周知している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな役割を頼み、出来そうなレクリエーションを楽しんでもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ渦のため、家族や地域の方との外出はできないが、天気の良い穏やかな日は散歩に行き、大きな空を見上げたり、季節の花をみたり、猫をみたりと気分転換になるように支援している。</p>	<p>近所を散歩をしたり、回覧を持って行ったり、地域の人と会うと感染予防をしながら、挨拶をしている。受診の時や個別にドライブをして車の中から花を眺めて季節を感じている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>特にお金を所持されなくともいい状況にあるため、所持はされていない</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて日常的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑の植木や鉢を置き、季節の花を飾ったり、季節感のある絵手ぬぐいを飾っている。テレビもあまり暗いニュースを避け、音楽や動物番組、スポーツ番組などを見てもらっている。時代劇なども音量に配慮しながら、気持ちよく過ごせるように工夫している。	植木や花を飾ったり、季節感のある壁面画を利用者と作成している。花畑を再現し花を触り心が癒されるような支援もしている。加湿器を随所に置き窓の開閉で換気にも気を付けている。水戸黄門等の時代劇のビデオや相撲をテレビで鑑賞し楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にも、ソファーや、玄関ホール椅子など、好きなところでくつろいでもらえるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた家具や、家族の写真、思い出の品などを飾って、居心地よく生活できる工夫している。	仏壇・テレビ・写真・ハンガー掛け・寝具など、家族や利用者が話し合い、本人の好みの物や使い慣れたものを持ち込み、個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示や、居室の名前を表示して安全に生活でき、わからないときは訪ねやすい雰囲気を作り自立した生活ができるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない